

「川場学園」開校準備室だより

令和5年7月14日（金）発行 第3号（発行：川場村教育委員会 開校準備室）

「非認知能力」の育成に向けて（川場村教育研究会総会）より

「非認知能力の育成」ということが、今後の教育の重要な方向性として、最近よく取り上げられています。「川場学園」の基本理念の目指す学校像でも、「非認知能力を磨き合う学校」と設定されています。



さて、この「非認知能力」とは、一体どのような力なのでしょう。

6月14日（水）に行われた川場村教育研究会（川場小・中・こども園の教職員による研究会）総会で、宮内教育長より非認知能力の育成について説明がありました。それは（教育長説明の一部を抜粋）、2000年のノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマン教授が「**人生の幸せと成功に学力よりも大きく寄与する能力**」と証明した能力、だということです。そして、川場村としては、「非認知能力」を三つの枠組み①**自分と向き合う力（自制心・忍耐力・回復力等）**、②**自分を高める力（意欲・向上心・自信・自尊感情等）**、③**他者とながら力（共感性・協調性・コミュニケーション力等）**で整理して捉えていく、ということでした。また、今後は、目指す学校像「非認知能力の育成」や目指す子ども像「当事者意識をもって主体的に考え、判断し、行動する子ども」を最上位目標として、「手段が目的化していないか」という観点で様々な取組を見直し、子どもたちと共に考えながら最上位目標の達成に努めていくことが大切である、という説明がありました。

各教科等の学習や学校生活において、子どもたち自身が課題を見つけ、その解決に向けて自ら解決方法を見出し、友達と協力し合いながら最後まで諦めずに答えを導き出すことができる子どもたちの育成を目指し、開校準備を推進していきたいと思っております。

令和5年度第2回「開校準備委員会」で制服の方向性が決まりました

第2回の開校準備委員会が6月29日（木）に開催されました。第1回の検討内容を受け、主に「制服」の方向性について検討をいたしました。機能性や経済性、またジェンダーフリー等の観点を踏まえて、いくつかのサンプルを見ながら活発に意見交換されました。具体的には、既存の制服の扱いについてや経済的負担を減らすための制服バンク等の仕組みづくり、また着やすさ等の機能性の重視、各家庭で既存と新規の制服を選べる選択制の導入など、新しい川場学園を象徴するのにふさわしく子どもたちが川場学園に誇りの持てる制服を選定するため、委員の皆様一人一人が真剣に考え熱心に検討していただきました。

検討の結果、下記のように方向性が決定しましたのでお知らせいたします。

【制服についての方向性】

「川場学園の制服は、**経済性や機能性、ジェンダーフリー等の観点を考慮し、新しいデザインとする。ただし、在校生が既存の制服を着用することも可とする。また、新入生が兄弟姉妹、知り合い等から既存の制服を譲り受けて着用することも可とする。なお、新入生が新規に既存の制服を購入することはできない。**」



【決定までの手順】

上記の方向性に沿って各業者によるプレゼンテーションを行い、開校準備委員会において数点のサンプルに絞ります。それを学校や役場等の公共施設に一定期間展示し、多くの方々に見ていただいた後、再度アンケートを実施して、その結果を基に最終検討し制服を決定していく予定です。

開校に向けての準備の進捗状況等につきまして、ご不明な点等ございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

川場村教育委員会 開校準備室（室長：井口昌之 0278-52-3458）